

第 5 回（仮称）千代田区ウォーカブルまちづくり戦略検討会 議事要旨

日時	令和 4 年 5 月 24 日（火）15 時 00 分～16 時 30 分
会場	区役所 8 階 第 3・第 4 委員会室
出席	11 名（全員出席）
議題	千代田区ウォーカブルまちづくりデザインについて （１）第 4 回検討会での意見対応について （２）千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン（案）について

議事要旨

● 開会

資料等説明（事務局より）

- （１）委員の変更について（区）職員
- （２）第 4 回検討会への意見対応について
- （２）千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン（案）について

- 区職員の人事異動に伴う委員の変更について説明がされた。（清水委員、恩田委員）
- 資料 1、資料 2－1、資料 2－2、資料 3－1、資料 3－2、に基づき、千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン（案）について、第 4 回検討会での意見及びパブリックコメントの実施結果を踏まえ修正した内容等を中心に説明がされた。

意見概要（千代田区ウォーカブルまちづくりデザイン（案）について）

- P7 の表について、沿道建物欄に 1 階の沿道用途について入れたことはよいと考える。一方で、その沿道建物の記載がパブリック空間欄と離れてしまっているが、沿道建物もパブリック空間の要素の 1 つであるので、沿道建物欄の一番上にあげることでパブリック空間との関係が近づくような表現ができるとよい。国の施策でも道路空間と周りの沿道建物の全体が大事だと整理していたはず。
- P12 の住宅エリアでのイメージの一例として示されている健康の維持・増進が主目的となっており、限定し過ぎであると感じた。
- 沿道用途については、1 階だけでいいのか。低層部という言い方のほうが妥当ではないか。
- ヤンゲルは目に入るところが大事と言っている。グランドレベルでいいのかもしれない。
- ネットワークについて、P8・P10・P20 と記載があるが、それぞれどういう関係にあるのか、別々の場所に記載されているため分かりにくいと感じた。それぞれ違う空間を示しており、スケールも違うため、P10・P20 については立体的に示していただいたほうが良い。
- P20 のイメージはウォーカブルな要素が集中しているところを選ぶことを想定しているのだろうが、明確な記載がなく、駅前だから選んでいるのかとか、色々読み取れてしまうため補足があってもよいと感じた。
- P16 の区民・事業者・行政の役割分担について、区民・事業者と行政が違う役割を担っている中、区民・事業者の動きがあるから行政も動くのか、その逆の動きがあるのか、一体的に動くものなのかが分かりづらい。
- 誰が動くのかということについて、行政・民間それぞれからがありえるのか。民間主導というところがベースなのか。まちづくりの機運が高いところが第一条件なのか、行政がしかけることはないのか。
- ビジョンがないときに、地域を巻き込んでいく取組みをどう起こしていくかが課題である。そのために、コロナ占用特例

のように店舗一つから支援していくように見えるかどうかが重要である。一人で手を挙げるのではなく、ある程度のスケールになってから支援するのか、個別でも支援するのかが見えない。このデザインを読むと想定はできるが、しっかり書くか、PR の段階でするかを検討していただけるとよい。

- 都市計画スケールとなると、ある程度認められた団体のみが支援されるが、今回はそうではなく一人でも手を挙げるところを支援していこうという話だと考える。本デザインも、商店街組織であればできるけど、そうでなければできないといったことにならないように検討してきている。公的にのせていくところと、個別にのせていくところの 2 段レイヤーで支援していくことが明確に見えるとよい。
- 個人がいいアイデアを持っているときに、本デザインを読んで個人だとできないと感じてしまうと違うと考える。コラム等を工夫して、一人でもできるということを伝えられるように検討するとよい。
- ある事業者が「自分がもうかるから」ということだけでなく、全体の居心地が良くなるということ、事業者の経済的な QOL の向上が、周辺の居心地の良さや価値も含めて向上するということを補助線として示せると、行政もそれを支援できると考える。逆に、地域の QOL が高まることで儲かるといったことが示せるとよい。エリア全体の価値を上げるということを説明できれば、管理者としても支援できるようになってくるのではないか。
- 神田で言えば、路地横丁の 1 軒でしかけるところからエリアに波及させようという取組みが、商店街の窓口がないとできないということではなく、路地に行ってみると楽しい、居心地が良いということができれば、次は隣でもやってみようとなっていく。そしてその他の仕掛けまで考えていくことがまさに戦略となる。本デザインでは、そういったことが読めると思うので、より分かるようにして、「私のことだ」と思えるようにできるとよい。
- 個人ではいいアイデアはあるが、様々な理由で実行できないという人が 応募や持ち込みができるような仕組みがあるとよい。あるいは個人では具体的な進め方が分からないときに、それを聞いて道を示せるような総合的なサポートがあるとよい。そうしたことができると、未来に対していいことをやっているということや、歴史を作っているということを感じられるようになり、このまちに住んでよかったということにもつながってくる。
- 今後各地域でどうウォークブルが落とし込まれていくのが楽しみだし、個人的にはやっていきたいと考えている。一方で、ウォークブルが悪用される可能性も考える必要がある。何を持ってよいものとするのか、取組みの評価の指標のような、担保できるものをつくっていく必要がある。なにか判断できるものが作れるかどうか実際に落とし込んだ時に大事である。
- 本デザインは、やりたかったことができるようになるかもしれないという意味で大きな意義があるものである。許認可等はこれまで同様にあるので、このフィルターを通せば何でも OK だということにはならないと考える。できることを広げていくことが重要で、行政と協力してできることを増やしていく入口ができたということが大きいと考える。一方で、悪用に対するリスク等について指摘されたときに対応できるようにしないと、本デザインが社会的信用を落とすようなことになるので注意が必要である。
- 本デザインは、都市計画マスタープランに掲げる将来像を実現するためのアプローチであり、区内全体がこのデザインをもとに QOL をあげていくロードマップのスタートに立っているところである。今後、様々な施策を多重的に展開していくにあたって、区内のステークホルダーを整理していただけると良いと感じた。P16 に、区民・事業者等とあるが、この中でも権利関係の有無等、様々なステークホルダーが混在していると考ええる。その違いを認識しながら、関係性を明確にして取組みを進めていく必要がある。
- 千代田区としてだけでなく、東京の中心の千代田区はこんなことをやっているということを世界に発信できるようになるとよいと感じた。

まとめ（各委員からのコメント）

各委員より今回の検討会の感想や、今後のウォーカブルなまちづくりの取組みで期待すること等についてコメントをいただいた。

- 国のウォーカブル施策が、地元の行政にちゃんとおりてきて、具体的な中身を考えようとしていることは素晴らしいと感じる。ウォーカブルをしかけた国の幹部の方に、本デザインのことを話すと非常に喜ばれていた。本デザインはとてよくなってきたが、ウォーカブルという強い言葉に引っ張られがちになるので、本デザインのように、地域の人为主役になることが大事であるとする。本デザインは、活動につなげるための手前のステップだが、活動は地域が主体になることが大事。住民と行政、消費者と生産者、といった対立構造が課題を生んでいる。その観点からも自分からプレーヤーになってもらえるようになること。また、活動のベースになるのは QOL ということであるが、QOL についての正解を限定できない中、コラムとして方向性を示す形でまとめられたことはとてもよかった。
- コロナ禍が 3 年目となる中、秋葉原の現場の社員としてはこの 2 年間何もできなかったのが実情である。できない中で何をしなければいけない中、ここに呼んでいただき、具体的に地域で何かを出来るような道筋をたてていただいたのはありがたいと思った。同時にこういうコロナ禍だからこその話し合いもできたことは良かったと感じている。私は現場のまちづくり会社の社員なので、これを受けて具体的にどこで何をとおせるのかということを考え、取組みをやっていきたいと考えている。
- 色々な気付きをいただいたと思う。大丸有地区もまだまだ感覚としては 3 割くらいの状況であると思っている。そう考えると、ここから千代田区全域で展開するのはかなりのチャレンジだと思うが、すぐにアクションに移れるように官民で取り組んでいければと思う。例えばだが、3 年後とか 5 年後とかフォローアップしながら、本デザイン自体も育てていけるとよいと期待している。
- 皆様から色々な、情報とか知識をいただいて貴重な機会だったと思う。今回の検討会を経て、区内を歩いていると千代田区はウォーカビリティが高い区だなと感じるようになった。私の一押しの場所は、季節限定ではあるが、紀尾井町のソメイヨシノが咲く通りである。赤坂見附からきて弁慶橋をわたると千代田区だが、右手に紀尾井町のガーデンテラスと清水谷公園があり、左手にニューオータニとテラス席のあるカフェ。2 車線の通りだが、清水谷公園の緑を背景に、ソメイヨシノから遅れて八重桜もきれいに咲く。さらに進むと四谷の土手、市ヶ谷の外堀をとって靖国通りに入っていく。あのあたりはさくらとお江戸の歴史を楽しめてよいと考えるので、参考にしていただけると幸いである。
- 学びの場であった。個人的には、自分の父親が今のような前の大丸有で勤めていたということもあって、長い時間がかかったの移り変わりをすごく感じた。コミュニティについて、ある有名な先生が、「コミュニティは分かち合うことではなく、分かち合えないことを理解することで、それでも一緒にいることを受け入れる技法だ」とおっしゃっていた。話し合いだけで理解できるのであれば、今のような世界情勢ではない。それぞれの幸せを願ってそれぞれの正義がある中、まちにおとしこんだとき、それでも話し合いを続けて、それぞれの立場を受け入れていかなければいけないと思った。ただ、こういった話し合いが行われていることを、一部の人以上だけではなく、広報などを通じて本当に、広く伝え、広く知ってもらって、新しい一歩が始まるのではないかと感じた。
- ウォーカブルなまちづくりに資する各種制度の一例として、策定中の文化財保存活用地域計画がある。文化庁との協議の中で、江戸城について発信していけるのは千代田区だけだという話や、大丸有も江戸時代から近代の都市構造がすべてある貴重な場所であるという話があった。ウォーカブルの視点を盛り込んで進めていきたいと考えている。
- 本日初めて参加させていただき、この短い時間でも学び・気づきがあった。地域振興部長ということで、地域振興は、地域に住んでいる皆さん、地域が活性化するような視点で、まさにウォーカブルに絡むと考える。一方で、色々な意見がいて、反対する人もいて、でも何年かしていいことだったようにいえればよいが、現実真っ二つに分かれるよ

うなこともある。この前は子ども部に所属していたが、「子どもの声が幸せ」という声もあるが、「テナント業をやっているが、そこに差し障りがあるので公園で遊ばせるな」という声もある。どっちかがいけないということではなく、受け止めなければいけない。それを踏まえてウォーカブルをやらなければいけない。もう一つ、ツイッターとかでは道路族という呼び方で、道路で子どもを遊ばせているご両親にやめろという声が上がっているが、我々としては何でなのということだが、それもそれぞれの立場で道路は道路として静かに使ってもらいたいという声があることもふまえて、どこでどうやって実現するか考えなければいけない。区民・事業者等と行政を分けてレイアウトしているが、もしかしたらまちづくりや地域、活性化、我々がやる行政というところを含めて、対立構造の話があったが、役割分担の概念そのものがなくなるとはいいのかもしれないと思った。居心地の良さはどこで実現するのかとあったが、実現には自分の利益より他人の利益を考えなければいけない。もらうより与えることが大きくなければいなくて、自分が他者に貢献することで初めてそこに居場所というものが生まれるのだろうと感じた。そこで初めて居心地の良さが現れるのであれば、事業者がもうかってよいということを前面にだすよりは、事業者も、区民の皆さんも或いは区外から来られる方も行政もなくて、みんなでこのエリアをよいものにするように、みんなが提供しようよというスタンスを徹底的に推し進めることがあってよいとも感じた。一方で、そういうことにすら色々な声がある中、パイロットプロジェクトを進めるときには、どこでどういうスケールでやっていくかというのは、現実的に考えなければいけないと感じた。

- そういったことを区の中で検討しないといけないと考えている。今回 5 回にわたってご議論いただき中、次のステップの話を多くいただいた。それは区に対してこういったまちづくりを進めてほしいという期待であると考えている。その中でも制約や制限があり、善悪もあり、区としてどうしていくのかということを検討しなければいけない。そのために、区ではウォーカブル推進会議というものを立ち上げた。そこで議論しながら区として進めるべきものを確認できれば、後ろ盾になるような形で進めていきたい。そんなところで、皆さんのご議論を受け止めて進めていきたい。先程樋口委員よりご紹介いただいたように、すでにあるところがぬけていけば、ウォーカブル推進会議の中で話し合いながら、発信していくことも大事なかと考えている。
- この検討会を経て、既存の公共空間・公共的空間を活用していくために、道路管理者側も発想を変えなければいけないと感じた。また、キックオフでは、既存ストックの活用中心だったが、今後地区計画を見直す際や拠点開発の補助線にもなってくるのではないかと感じた。地区計画や開発の中でも、マネジメントを意識した形で公共空間の使い方を考える補助線になったと思う。P15 のコラムは、タクティカルアーバニズムといってしまうと一般人にはわかりづらいが、こういう書き方をすると分かりやすく、成果であると考えている。最後に、千代田区として世界に発信するものは世界最大級の城郭と言われている江戸城の環境軸だと考えている。また、ベネチア的な水辺とか、都市の中に渓谷的な水辺があるのは珍しいという話もあるので、千代田区に居るとあたりまえになってしまっているが、そういった資源を使いながらウォーカブルを進めていければと考えている。
- ウォーカブルをここまで深く掘り下げて、前向きかつ現実的な落とし所も踏まえて、これだけ整理したものは他にないのではないかと感じている。実現に向けた道筋にある、今後に向けた制度等についても、色々なタイミングがあるが、チェックリストのような形でできることから進められるようなものになっていてよいと感じる。すでに推進会議が立ち上がっているということで、少しずつ各エリアでもウォーカブルなまちづくりの取り組みが立ち上がってくるなか、それをどうつなげていくかということの見立てを、推進会議や若手職員の勉強会で練っていただき、動かすときにすぐ動かせるようにしていけるとよいと感じた。若手職員の勉強会でもすでに具体的な内容も上がっていたので、ぜひそれを活かして、実空間で区の皆さんが関わったことについて実感がもてるようなことを増やせると、ウォーカブルなまちづくりの考え方のステップアップにつながると思うので、ぜひ皆さんのつながりも大事にしていきたいと思う。
- 5 回しかなかったのかと思うくらい、密度の高い議論ができたと感じている。本デザインは、都市計画マスタープランの改定がまずあって、量から質へ転換するという中、その実現に向けた手段としてウォーカブルなまちづくりがあり、そのためにどう戦略があったらよいかということから議論が始まった。区としても、質的転換を図るにはどうやったらできる

のかということがあったと思うが、かなり踏み込んでいただいた。そして今後チャレンジしていくには困難もたくさんあると思うが、それをやっていくという気概でまとめてもらい、委員もこういう区になったらいいのではないかという希望をたくさん伝え、こうして一つにまとめたことは非常に意義深いと感じている。最後に意見を聞く中でも、そうだったのかと改めて思ったが、私的な活動を公的な価値にするときに、やはり利他的な活動が公的な価値を生むのだということで、それをウォーカブルなまちづくりとして協働していくという姿勢を、本デザインで打ち出せたことに意義があると感じている。また様々なまちづくりの場面や活動を展開できたら、数年後にフォローアップをしていくこともできたらよいと考えている。

その他（事務局より）

- 設置要綱に基づき、委員の任期は検討報告が完了した日となることを報告した。
- 本日の検討結果を踏まえ、文言の意図が変わらない範囲で修正をし、報告することとした。
- 報告後、6月中を目処に千代田区ウォーカブルデザインを策定する予定であることを報告した。

閉会